

## 第3回 川越市総合計画審議会 議事要旨

**1. 開催日時** 平成22年5月7日（金）午後2時～午後4時30分

**2. 開催場所** 川越市市民会館 第3会議室

### **3. 出席者**

立原、梶川、岩崎、内田、大河内、岡田、小室、櫻井、高田、鍋田、山岡、山木、関口、小野澤、柿田、牛窪、近藤、倉嶋、江田、中島、真下、嶋村、關、土橋、平松の各委員

### **4. 会議の概要**

#### 1 開会

#### 2 会長あいさつ

前回の第2回審議会では、前期基本計画の進捗状況について活発な議論を頂いたおかげで、本日に持ち越しとなった部分もあるが、本日は議題として始めに後期基本計画の策定方針について議論し、その後に後期基本計画の中身について後期基本計画の位置付けから順に審議して参りたい。

昨今は、10年単位で持続可能なサステナビリティなどが大変、話題となっており、地球サイズで考えれば環境問題だと思われるが、地域・行政に置き換えると地域経営だと思われる。本日からいよいよ各論に入るので、皆様の忌憚のないご意見と活発なご議論をお願いしたい。

#### 3 報告

事務局から配布資料の確認と、前回の審議会の概要及び訂正箇所の説明を行った。

#### 4 議事

資料について各項目ごとに事務局から説明を行った後、次のような意見交換が行われた。

##### **【主な意見交換及び質疑応答】**

##### **(1) 第三次川越市総合計画後期基本計画の策定方針について**

##### **▶ 後期基本計画の位置付け**

○前期基本計画において、目標設定が必ずしも目的を達成するものになっていないのではないかと。基本計画で掲載してある各施策について、何年度にどの施策を行うのかというタイムスケジュールが見えて来ない。また、優先課題につい

て、どのような判断基準で行って行こうとしているのかも見えてこない。行政資源の配分については、どのように考えているのか。今後はある程度見える形で計画を立てて行く必要があると思われる。現時点での執行部のお考えをお示し頂きたい。また、後期基本計画策定は前倒しで進めるべきと考える。

- ・目標値の設定について今回、若干の見直しを行っており、目標値の達成について今後5年間でどのように実施して行くかを検討している。年度毎の施策については実施計画のなかで毎年ローリングしている。自治体の経営資源をどのように使うのかという点については、重点施策に行政資源を優先的に配分していく。また、計画策定の前倒しについて、次回総合計画策定時には社会情勢等を鑑み、ご指摘のとおり早めにスタートして行きたい。
- 施策の重点化というところで、川越市案の他にも他市の案が掲載されており、宇都宮市の幸福度のUP戦略など個性的な項目もあり、新鮮な視点であるが、他市の状況を掲載した意図についてご説明頂きたい。また財政見通しの今後の対応策に関連し、委員が共通認識を持つ上で、市で策定したH22～H26年度までの中期財政計画について、どのような傾向なのか等の説明をして頂いた方が良い。
- ・基本方針自体が原案を作成する前に市の内部方針という形で定めたものであり、市の内部で検討を行う参考資料として他市の事例を掲載させて頂いた。中期財政計画の内容については、次回の委員会で資料としてご提示させて頂きたい。

➤ **後期基本計画の名称、期間及び構成**

- 施策の重点化が取り上げられているが、川越市としての特色をどのように打ち出すのかという際に数百の事業を網羅的に羅列するだけでは分かりにくい。川越市としてどのようなまちづくりを意図するのか、という観点が必要である。川越市として今後5年間、何に重点を置くのかということが明らかになって初めて川越市の市政・行政が目に見えてくる。取り上げられた重点施策の位置付けを含めご説明を加えて頂きたい。
- ・具体的には後期基本計画原案 23 ページにある「小江戸かわごえ重点戦略」に掲載しており、①未来につなぐひとづくり戦略、②活力と魅力あふれるまちづくり戦略、③快適で安心できるくらしづくり戦略の3つの施策を重点戦略としている。予算編成の際も、基本的に3つの重点戦略について、優先的に予算配分して行くことを考えている。

➤ **将来人口について**

- 特段なし。

➤ **後期基本計画策定における市民参加**

- 特段なし。

## (2) 第三次川越市総合計画後期基本計画原案について

### ➤ 後期基本計画の位置付け、後期基本計画の名称及び期間、社会状況の変化と施策に対する市民の意識

- 市民アンケートの集計を見ると、市民にとって一番関心があり、不満も含まれている内容が、高齢者福祉・社会保障の推進であり、かなり上位に挙がっていることが分かる。重点戦略の項目は、アンケート結果を踏まえた内容にすべきと思うが、どのようにお考えか。
  - ・市民アンケートの結果を踏まえて重点戦略を策定したが、社会保障や高齢者福祉の推進については、分野別計画に反映されているという形でご理解を頂きたい。
- 高齢化は今後、相当の進捗で進んで行くことが予想されるので、小さな項目として捉えるのではなく、やはり大きな項目として次の10年につなげるものとして重点戦略として捉えるべきではないのだろうか。市長の交代に伴いマニフェストとの整合性や兼ね合いについても併せてご検討頂きたい。
  - ・高齢者福祉・社会保障の推進が、一つの柱となっていないとのご指摘だが、高齢者の参加や高齢者が地域の担い手の主体となって頂くという形で重点戦略を策定している。市長のマニフェストについては、重点的に進めるべきものは重点戦略のなかに取り込ませて頂いているということでご理解を賜りたい。
- 高齢者の社会参画ということで、医療・介護・福祉の面で今後は社会的に大変な状況になることが予想され、要介護者や障害者等の対策も含めて、福祉対策を大きく川越市の重点戦略に取り入れて頂きたい。
  - ・社会保障の推進について、市民のニーズにこたえていく考えであり、分野別計画の施策において新たな目標値設定等をしている。具体的な内容については、個々の施策の議論の時にご説明をさせて頂きたい。
- アンケートについて問題が多いと思われる。質問や回答の基準が理解できず、難しいという声が自由意見のなかにもあった。重要度と満足度の評価のしようがないという意見があったが、そのとおりだと思われる。次回、アンケートを実施する際は、項目を絞って行ったほうが分かりやすいのではないだろうか。また、5ページの「市民所得・県民所得・国民所得の推移」のグラフで、H13～H14年度にかけて川越市の市民所得が下がっているのはなぜか。
  - ・アンケートについては、市民の方からも非常に難しかったという声を聞いており、ご指摘の意見を参考にさせて頂き、今後、検討して参りたい。また、市民所得の減少については、次回にご報告をさせて頂きたい。
- 言葉の定義に関して、小江戸かわごえ重点戦略と重点施策の使い分けについてご説明を頂きたい。
  - ・「戦略」とは、ある程度、意志や意識を持って組み立てているものと理解している。3つの重点戦略に関して、市が意識を持って事業化して行くということで戦略という言葉を使用させて頂いている。

- 8、9 ページに「協働」という言葉が出て来るが、現在は個人主義的な若い人が多く、公助だけを期待しており、自分達では何もしないという傾向が見受けられるので、その人達も巻き込んだ形で協働や連携という仕組みを盛り込んで行けば良いのではないだろうか。
- 原案の中で、共助、公助という用語が出て来る。障害者や高齢者については必然的に公助によって助けられる立場になってしまうが、障害者や高齢者の中にも十分に活躍できる方も増えており、もう少しきめ細かな分類の仕方をして頂けると助かる。
- 少子高齢化について、少子化と高齢化は要因が別なものなので、両者を分けた状況分析の仕方が必要ではないだろうか。若干、踏み込んだ記述が必要であると思われる。
  - ・ご指摘のとおりと考える。12 ページでは、少子化と高齢化に分けて分析している。
- 「市民、事業者、民間団体との協働」について、具体的な例示が無かったので、想定されている公共サービスについてご教示頂きたい。また、川越市のホームページアクセス数のグラフについて、行政情報へのアクセスや観光客によるアクセスなどの総数が 100 万件となっているものと思われるが、アクセス件数の内訳についてお聞きしたい。
  - ・協働について、昨今は行政だけではすべての市民ニーズに対応できないということで、皆が一緒になって、まちづくりを行うということが根底となってきている。具体的には、提案型協働事業に補助金を出しており、H21 年度は 14 件の応募があった。例として、NPO 法人団体などが提案型で協働事業を実施している。また、市から依頼する協働委託事業としては男女共同参画研修会事業などを実施している。
  - ・インターネットのアクセス件数については、トータルで 100 万件というアクセス数となっている。

## ➤ 人口推計

- 年齢 3 区分人口の推移グラフについて、最近の 65 歳は元気な人が多いことから高齢者を 65 歳からひとまとまりとして区切るのではなく、例えば 75 歳以上の範囲で区分しても良いのではないだろうか。
  - ・データが得られれば次回、お示ししたい。
- 産業別に川越市の人口動態を捉えるという視点はいかがだろうか。
  - ・上記について、クロス的なデータが得られるかどうか検討をさせて頂きたい。
- 地区ごとの高齢者の比重など地域に根ざした統計結果があれば、地域の実情に合った計画策定や、また逆に地域からの協力も得られるのではないだろうか。
  - ・地域ごとの年齢構成の統計もあるので、次回資料として提出させて頂く。

## ▶ 土地利用

- 旧市内しか知らないが、現在、都市計画道路について工事が止まっている場所が3箇所あるが、今後、どのような計画になるのだろうか。
- ・本川越駅前通り線については、過日、事業化に向けた説明会を行い、今後、東へ延伸して行く予定である。川越駅南大塚線の整備と国道16号線との交差点改良事業については両事業併せて平成23年度の完成を目指し、鋭意努力して計画とおりの整備を行う考えである。
- 資料17ページの「土地利用構想図」について、新駅周辺とあるが、何か計画があるのか。また、16ページの「地域別土地利用」に関して記載されていない駅があるが、除かれている理由は何かあるのか。
- ・新駅周辺については、西武線の南大塚の駅から延びており、かつて通称安比奈線という貨物線があったが、車両基地を作ることになり、途中駅ということで新駅周辺となっている。また、霞ヶ関、新河岸、南大塚、南古谷および西川越駅については、各地域の核となる駅ということで基本構想の将来都市構想図に掲載しているが、的場、笠幡駅については地域核として規定していないということで、除外している。
- 都市計画法が改正されて開発抑制という方針が出されているが、川越市においても線引きが形骸化しているものもあり、線引きの権限が現在、市に移っているということであれば実効性のある線引きを行って頂きたい。
- ・線引きの権限については現在も県に権限があり、市単独で線引きを見直すことは出来ない状況である。県の線引きの考え方に関して、人口フレームという考え方を持っており、埼玉県の場合、人口フレームが不足している状態となっている。適宜、可能な範囲で見直しを行っていきたい。
- 以前、川越駅西口に市役所が出来るという話があったが出来ておらず、公民館跡地や図書館などの土地が広がっているが、今後どうなるのだろうか。
- ・ご指摘頂いた川越駅西口周辺は事業化されたが、応募した事業者が県から指名停止を受けて事業を中断している。現在、再事業化に向けて埼玉県と川越市で協議している最中である。図書館については、埼玉県のほうで、今年度中に取り壊すということである。
- 土地利用構想図中の「土地利用転換想定箇所」について、どこまで実現性を持った構想として位置付けられているのか。また、同箇所について具体性のある所と無い所があると思われるが、市としての考えをご教示頂きたい。
- ・土地利用転換想定箇所については、長い経緯のなかで計画を断念したところや、見直しが必要なところがある。例えば西川越駅周辺地区があるが、第一次川越市総合計画のなかで、新総合センター地区としての位置付けがなされ、第二次川越市総合計画のなかでは、将来の都市活動を支える施設と緑のアメニティ機能を併せ持ち、都市構造が強化された地域として整備を図って行くという形で

位置付けがされた。現状でも何らかの開発が行われたことはなく、将来的に何らかの具体的な計画があるわけでもないが、今後は中心市街地に近接していることもあり、道路交通の結節点という利便性など現状のポテンシャルの高さに着目し、公共施設の整備等、様々な可能性を視野に入れながら検証を行い、5年間の計画期間内に結論を出して行きたい。その他の箇所についても、同様に検証を行い計画期間内に結論を出して行きたい。

- 市長は何度か川越市のグランドデザインを描きたいと発言したことがあるが、まさに土地利用構想図にもかかわって来るところだと思われる。今後、しっかり経済論、生活論など多方面から考えて行く必要があるだろう。現在の土地利用構想図は、市民にとって川越が今後どう変わっていくかが分かりにくく、また尺度もないため誤解されやすい表現となっている。表現には配慮して作成して頂きたい。
- 第三次川越市総合計画後期基本計画原案のなかで、他の章は現状を述べているのに対し、「土地利用」の章の部分だけ意志が入り込んだ内容になっており、違和感を覚えた。他の章との内容の整合性についてご検討をお願いしたい。

#### ➤ 産業

- そもそも限られた財源といっているが、その主要な原資である法人税、市民税などを生み出す産業について議論が必要と思われる。現状把握の資料として、産業別の税収状況の資料を提示して頂きたい。また、産業自体が財源を支えているという記述もどこかに入れる必要があるのではないだろうか。また、就労に関して、市内で働いている方や川越から都内へ出て働いている方のコミュニティへのかかわり方についての議論も要望として申し上げたい。
  - ・資料は、次回までに用意をさせて頂く。
- 農業振興の課題などに関して、農業に無関心な背景もあるのかもしれないが、消費者と生産者の連携があっても良いと思われる。行政が市民に分かりやすく産業の情報をPRして行けば良いのではないだろうか。
  - ・農業振興に関して、「農産物の直売所設置数」を新たな目標値とし、市民と生産者の連携も視野に入れている。ご指摘の点に関して、今後、各論のなかでご議論頂ければと思う。
- 川越市は工業団地からの税収が大きく、道路整備率も良く恵まれている環境である。工業や、商業、農業との連携を図りながら工業団地にも力を入れて更に税収増加を狙えば良いのではないだろうか。
- 川越市に在住しながら都内で働いている人はどれ位いるのだろうか。参考までにご教示頂きたい。
  - ・国勢調査のデータがあるので、次回、データをお渡しさせて頂く。
- 川越市は全国と比較して税収の落ち込み幅が少なく、前述されたように道路整備事情が良いことなどがある。高齢者になっても自由に市内を散策できるよう

な大きな視点でまちづくりを行うと商業の活性化や経済の発展にもつながるのではないだろうか。

**(3) 今後の日程**

次回の会議は、5月24日(月)午後2時～4時、川越市役所7AB会議室で予定している。議事内容として、小江戸かわごえ重点戦略、財政収支見通しから始めてその後、分野別計画の共通施策、個別の分野へと進めて行きたい。

**(4) その他**

○特段なし。

**5 副会長あいさつ**

梶川副会長が、閉会の挨拶を行った。

**6 閉会**

以上